

デーヴォ ガイド



2023.12.4-10

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?



2:1 私が、あなたがたやラオディキアの人たちのために、そのほか私と直接顔を合わせたことがない人たちのために、どんなに苦闘しているか、知ってほしいと思います。

2:2 私が苦闘しているのは、この人たちが愛のうちに結び合わされて心に励ましを受け、さらに、理解することで豊かな全き確信に達し、神の奥義であるキリストを知るようになるためです。

2:3 このキリストのうちに、知恵と知識の宝がすべて隠されています。

2:4 私がこう言うのは、まことしやかな議論によって、だれもあなたがたを惑わすことのないようにするためです。

2:5 私は肉体においては離れていても、霊においてはあなたがたとともにいて、あなたがたの秩序と、キリストに対する堅い信仰を見て喜んでいます。

2:6 このように、あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのですから、キリストにあって歩みなさい。

2:7 キリストのうちに根ざし、建てられ、教えられたとおりに信仰を堅くし、あふれるばかりに感謝しなさい。

2:8 あの空しいだましごとの哲学によって、だれかの捕らわれの身にならないように、注意しなさい。それは人間の言い伝えによるもの、この世のそろそろの霊によるものであり、キリストによるものではありません。

2:9 キリストのうちにこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています。

2:10 あなたがたは、キリストにあって満たされているのです。キリストはすべての支配と

権威のかしらです。

2:11 キリストにあって、あなたがたは人の手によらない割礼を受けました。肉のからだを脱ぎ捨てて、キリストの割礼を受けたのです。

2:12 バプテスマにおいて、あなたがたはキリストとともに葬られ、また、キリストとともによみがえらされたのです。キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じたからです。

2:13 背きのうちにあり、また肉の割礼がなく、死んだ者であったあなたがたを、神はキリストとともに生かしてくださいました。私たちのすべての背きを赦し、

2:14 私たちに不利な、様々な規定で私たちを責め立てている債務証書を無効にし、それを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました。

2:15 そして、様々な支配と権威の武装を解除し、それらをキリストの凱旋の行列に捕虜として加えて、さらしものにされました。

パウロの「苦闘」はラオディキヤの人々が「キリストを知るようになるため」と言っています。なぜなら「キリストのうちに知恵と知識の宝がすべて隠されている」からです。「隠されている」と表現されているように、時には私たちクリスチャンもそれに気づいていない場合があるからではないでしょうか。

問題を見たり、自分を誇ったり卑下したり、人が気になったりすることも多いものです。しかし私たちがキリストを見ましよう。キリスト・イエス様との交わりによって、生きるための全てが満たされるのですから、「感謝」しつつ「堅い信仰」を持ってゆきましよう。

「あの空しいだましごとの哲学」とは、当時流

行っていたグノーシス主義と考えられます。それによるとキリストは神によって造られたということです。それでは十字架には何の意味もなくなります。神ご自身の愛とは言えません。

キリストであるイエス様のことを正しく、熱心に知り、そして親しい交わりをして、神なる救い主であるイエス様と人生を歩みましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5日 火曜

コロサイ



2:16 こういうわけですから、食べ物と飲み物について、あるいは祭りや新月や安息日のことで、だれかがあなたがたを批判することがあってはなりません。

2:17 これらは、来たるべきものの影であって、本体はキリストにあります。

2:18 自己卑下や御使い礼拝を喜んでいる者が、あなたがたを断罪することがあってはなり思いによっていたずらに思い上がって、

2:19 かしらにしっかり結びつくことをしません。このかしらがもとになって、からだ全体は節々と筋によって支えられ、つなぎ合わされ、神に育てられて成長していくのです。

2:20 もしあなたがたがキリストとともに死んで、この世のもろもろの霊から離れたのなら、どうして、まだこの世に生きているかのよう

に、

2:21 「つかむな、味わうな、さわるな」といったために縛られるのですか。

2:22 これらはすべて、使ったら消滅するものについての定めで、人間の戒めや教えによるものです。

2:23 これらの定めは、人間の好き勝手な礼拝、自己卑下、肉体の苦行のゆえに知恵のあることのように見えますが、何の価値もなく、肉を満足させるだけです。

キリストを神としない考えは当時からありました。それは明らかにイエス様ご自身の主張と違っています。現代にも形や組織を変えて、そのような異端は存在しています。その場合多くはキリストは救い主ではなく、模範にしか過ぎません。なので人間は、努力して救いに至るのです。

ここにあるように、「食べ物や飲み物」のことで

規定を守ったり、「新月や安息日のことで」おきてを守ったりしなければなりません。または「肉体の苦行」が課せられたりしました。

今も多くの異端が、教団や教祖の利益のために搾取されるは同じような原理によります。このような教えがコロサイ教会にも影響していました。当時からあったのです。今もそれがあつたら、私たちは正しい信仰を生きることによって、教会とその福音を守る必要があります。

イエス様を模範以上の方、すなわち罪を負ってくださった神として、信じ、感謝し、愛を受けて、従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



6日 水曜

コロサイ



るのです。

3:1 こういうわけで、あなたがたはキリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。

3:2 上にあるものを思いなさい。地にあるものを思ってはなりません。

3:3 あなたがたはずでに死んでいて、あなたがたのいのちは、キリストとともに神のうちに隠されているのです。

3:4 あなたがたのいのちであるキリストが現れると、そのときあなたがたも、キリストとともに栄光のうちに現れます。

3:5 ですから、地にあるからだの部分、すなわち、淫らな行い、汚れ、情欲、悪い欲、そして貪欲を殺してしまいなさい。貪欲は偶像礼拝です。

3:6 これらのために、神の怒りが不従順の子らの上に下ります。

3:7 あなたがたも以前は、そのようなものの中に生き、そのような歩みをしていました。

3:8 しかし今は、これらすべてを、すなわち、怒り、憤り、悪意、ののしり、あなたがたの口から出る恥ずべきことばを捨てなさい。

3:9 互いに偽りを言うてはいけません。あなたがたは古い人をその行いととも脱ぎ捨てて、

3:10 新しい人を着たのです。新しい人は、それを造られた方のかたちにしたがって新しくされ続け、真の知識に至ります。

3:11 そこには、ギリシア人もユダヤ人もなく、割礼のある者もない者も、未開の人も、スキタイ人も、奴隷も自由人もありません。キリストがすべてであり、すべてのうちにおられ

イエス様によって救われた者は、その存在が新しくなりました。内面が変えられただけではありません。立場が先ず変えられました。天とつながる者となったのです。ですから「上にあるものを思う」ことが一番有効なのです。

またイエス様とともに生きています。ですから「いのちはキリストとともに神のうちに隠されて」いるのです。栄光も主イエス様と一緒にですから、私たちはもう「淫らな行い、汚れ...貪欲...」などには興味がありません。

自分は「新しい人を着たのだ」という認識から始めましょう。そのような自己像を持ちましょう。そして少しずつでも変えられてゆく自分を感じましょう。主の恵によって成長していく楽しみを味わいましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7日 木曜

コロサイ



3:12 ですから、あなたがたは神に選ばれた者、聖なる者、愛されている者として、深い慈愛の心、親切、謙遜、柔和、寛容を着なさい。

3:13 互いに忍耐し合い、だれかがほかの人に不満を抱いたとしても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。

3:14 そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全です。

3:15 キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。そのために、あなたがたも召されて一つのからだとなったのです。また、感謝の心を持つ人になりなさい。

3:16 キリストのことばが、あなたがたのうちに豊かに住むようにしなさい。知恵を尽くして互いに教え、忠告し合い、詩と賛美と霊の歌により、感謝をもって心から神に向かって歌いなさい。

3:17 ことばであれ行いであれ、何かをするときには、主イエスによって父なる神に感謝し、すべてを主イエスの名において行いなさい。

キリストの神であること、そしてその十字架の救い、さらには天の御座におられるその權威を知っている私たちです。私たちはキリストともに生きています。そのような恵みに生きる者にとって、何よりも問われることは、キリストの愛によって生きているかどうかということです。

罪を犯さないことも大切ですが、人を愛することはさらに重要で、その愛によってこそ私たちは正しく生きる指針が与えられるのです。「慈愛の心、親切、謙遜、柔和、寛容」を着るようにして身に付けましょう。

そして、「キリストの平和」によって支配され、「キリストのことば」が住んで生きるように、イエス様とともに生活しましょう。そうすれば難しい人間関係も、思わぬ和解へと導かれ、愛のある人として生きることができます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



8日 金曜

コロサイ



- 3:18 妻たちよ。主にある者にふさわしく、夫に従いなさい。
- 3:19 夫たちよ、妻を愛しなさい。妻に対して辛く当たってはいけません。
- 3:20 子どもたちよ、すべてのことについて両親に従いなさい。それは主に喜ばれることなのです。
- 3:21 父たちよ、子どもたちを苛立たせてはいけません。その子たちが意欲を失わないようにするためです。
- 3:22 奴隷たちよ、すべてのことについて地上の主人に従いなさい。人のご機嫌取りのような、うわべだけの仕え方ではなく、主を恐れつつ、真心から従いなさい。
- 3:23 何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から行いなさい。
- 3:24 あなたがたは、主から報いとして御国を受け継ぐことを知っています。あなたがたは主キリストに仕えているのです。
- 3:25 不正を行う者は、自分が行った不正を報いとして受け取ることになります。不公平な扱いはありません。

イエス様のことを深く知り、また異端に惑わされなくて正しく理解し、そしてイエス様の十字架で救われて新しくなった者は、その生き方が変わります。そして一番の変化は人間関係に表れます。ここでは夫婦、親子、雇用関係についての指導がありますが、人間関係の基本となることでしょう。

これらは一読すると、それは必ずしも現実的ではないと思えるかもしれませんが、そのとおりにしたら自分が損をする内容に思えます。そこが重要なのです。人との平和は相手に得をさせることです。相手を上にしてあげることです。

それができないのは神様に期待していないからで

す。もしも自分がへりくだり損をすることによって、神様からの祝福をいただけるのだとしたら、誰もがそうするでしょう。

「主に対してするように」しましょう。主は必ず報いてくださいます。そのためにも主イエスの愛をいっぱいいただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9日 土曜

コロサイ



4:1 主人たちよ。あなたがたは、自分たちも天に主人を持つ者だと知っているのですから、奴隷に対して正義と公平を示しなさい。

4:2 たゆみなく祈りなさい。感謝をもって祈りつつ、目を覚ましていなさい。

4:3 同時に、私たちのためにも祈ってください。神がみことばのために門を開いてくださって、私たちがキリストの奥義を語れるように祈ってください。この奥義のために、私は牢につながれています。

4:4 また、私がこの奥義を、語るべき語り方で明らかに示すことができるように、祈ってください。

4:5 外部の人たちに対しては、機会を十分に活かし、知恵をもって行動しなさい。

4:6 あなたがたのことばが、いつも親切で、塩味の効いたものであるようにしなさい。そうすれば、一人ひとりにどのように答えたらよいか分かります。

4:7 私の様子はすべて、愛する兄弟、忠実な奉仕者、主にある同労のしもべであるティキコが、あなたがたに知らせます。

4:8 ティキコをあなたがたのもとに遣わすのは、ほかでもなく、あなたがたが私たちの様子を知って、心に励ましを受けるためです。

4:9 また彼は、あなたがたの仲間の一人で、忠実な、愛する兄弟オネシモと一緒にいきます。この二人がこちらの様子をすべて知らせます。

3章からの続きで、ここでは奴隷の主人に対する教えです。雇用主や権限を持った上司にも適用できるでしょう。

そしてパウロは「私のためにも祈ってください

い。」とお願いしています。パウロは自分が指導しているコロサイ教会の人々の祈りも必要としていたと考えていました。時々、自分のような者が祈るなどおこがましいなどという人がいますが、そんなことはありません。立派は指導者のために祈るべきです。また私たちはもっと祈ってもらうべきでしょう。それは神様の栄光と愛を表すことになります。

「外部の人たち」というのは、伝道のためもあり、また仕事や近所の人なども想定されているでしょう。「機会を」活かし伝道し、また神なき価値観で生きておられますから、「知恵をもって行動」する必要があります。同化せずにはしかし拒否せず、主の愛によって交わることから聖霊の知恵をいただきましょう。

ティキコやオネシモなど主にある働き人同士が励まし合うことは力になり、主の愛を表し、そして励ましになります。そのような関係を大切に育んでゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





4:10 私とともに囚人となっているアリストアルコと、バルナバのいとこであるマルコが、あなたがたによろしくと書いています。このマルコについては、もし彼があなたがたのところにいったら迎え入れるように、という指示をあなたがたはすでに受けています。

4:11 ユストと呼ばれるイエスも、よろしくと書いています。割礼のある人では、この三人だけが神の国のために働く私の同労者です。彼らは私にとって慰めになりました。

4:12 あなたがたの仲間の一人、キリスト・イエスのしもべエパfrasが、あなたがたによろしくと書いています。彼はいつも、あなたがたが神のみこころのすべてを確信し、成熟した者として堅く立つことができるように、あなたがたのために祈りに励んでいます。

4:13 私はエパfrasのために証言します。彼はあなたがたのため、またラオディキアとヒエラポリスにいる人々のため、たいへん苦労しています。

4:14 愛する医者の方ルカ、それにデマスが、あなたがたによろしくと書いています。

4:15 どうか、ラオディキアの兄弟たちに、またニンパと彼女の家にいる教会に、よろしく伝えてください。

4:16 この手紙があなたがたのところで読まれたら、ラオディキア人の教会でも読まれるようにしてください。あなたがたも、ラオディキアから回って来る手紙を読んでください。

4:17 アルキポに、「主にあって受けた務めを、注意してよく果たすように」と書いてください。

4:18 私パウロが自分の手であいさつを記しま

す。私が牢につながれていることを覚えていてください。どうか、恵みがあなたがたとともにありますように。

パウロはキリストにある交わりを大切にし、その励ましの中で宣教が進むことを願っていました。それはまた一人一人の幸いであり、全人類の祝福にもつながるものと知っていたからです。私たちも自分の恵みばかり追っていると、本当の幸せばかり求めていると、本当の喜びを失ってしまいうすから気をつける必要があります。

そのような主の愛のご計画を共有するところに、クリスチャンとして本当の交わりが生まれます。パウロはそのことを願って、色々な人の消息をここで書いています。どれも主の愛の一致と、救霊の崇高な目的を思いながらです。

一人一人についてのコメントを見ると、パウロがいかに来られる人々を愛し、尊敬し、感謝しているかがわかります。私たちもこのように、人のことを話題にするなら、その人のすばらしい部分を分かち合いましょ。その人のどんなことが主の役に立ち、主に喜ばれているか、それを自分自身も感じて、それを人に伝えましょ。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

